

2016~17年度綿花相場

今季後半は軟調地合いか

南半球の生産国が大幅増産

日本綿花協会のレポートによると、国際棉花諮問委員会(ICA)はこのほど、2016~17綿花年度は季後半から相場が軟調となる可能性を示唆した。生産高が前季を上回ることに加え、特に季後半に出市が本格化する南半球の綿花生産国が軒並み豊作となつて、いるためという。

ICAの予想によると、今季の世界綿花生産高は前季比8%増の2280万ト。中国を除く綿花生産上位5カ国で増産が見込まれている。今季もインドが4%増の600万トと世界最大の綿花生産国となる見通しだ。中国は4%減ながら460万トの生産で世界第2位の地位を維持する。

米国は天候の改善やイールド向上で収穫予想の上方修正が続いており28%増の360万トに達する可能性が高い。パキスタンも20%増の180万トの生産となる。虫害対策が効果を上げていて、さらに南半球での綿花生産は豊作で21%増の280万トとなる。ブラジルは10%増の140万ト、豪州は綿花相場の堅調と給水事情の改善から64%増の100万トに達する予想される。

対して、今期の世界棉花消費は2410万トと前季並みの水準で安定する見込み。競合繊維であるポリエステル価格は依然として綿花価格を大きく下回っており棉花消費が大きく拡大する可能性は低い。中国の消費も740万トと前季並みにとどまる見込みで、インドは1%減の520万トと予想。パキスタンも230万トと前季並み。トルコは輸入綿糸との競合から棉花消費は3%減の145万トとなる公算が大きい。主要消費国での消費が伸び悩む中、バンクアラブが5%増の130万ト、ベトナムが13%増の110万トの消費を

見込むことで世界全体として前季並みの消費となる形。

このため今季末在庫は7%減の1800万トとなるが、その半分以上は国家備蓄を中心として中国の在庫。中国の在庫は中国の紡績以外はアクセスできず、中国以外の在庫は6%増の870万トに達する。このため需給バランス的にも相場は弱含みとなる可能性がある。

一方、現在の棉花相場は堅調に推移する。19日段階でニューヨーク定期相場は期近物(3月限)で172・69と70を維持。Aインデックスも81・50と80を台。需給バランス的には弱材料が多いものの、大半の棉花はまだ収穫されていないことから一時的に供給不足の状態にあることが要因と考えられる。

ただ、新綿の出市が本格化すれば相場を押し

する可能性がある。特に南半球で収穫された新綿が本格的に供給され今季可能性が高

旭紡績「いとやのタオル」

深黒でタオルギン



旭紡績が展開する「いとやのタオル」は2月8~10日に東京ビッグサイトで開催される「いとやのタオル」のイベントで開かれる「東京インターナショナル・ギフト・ショー・ホームファニッシュ&デコラティブフェア」で、ペルー綿のタオルを訴求するとともに、「深黒タオル」で構成する同社初のタオルギフトも打ち出す。ギフトセットは1~3日に同会場で行う開催されるギフトショーライブ&デザイン

川越政 数年ぶりの大阪個展盛況 独自性と安定供給を訴求

中堅生地商社の川越政(大阪市中央区)はこのほど大阪市内で数年ぶりの個展を開き、「想定以上の来客で充実の商談をこなせた」(川越浩治社長)と大きな手応えを得た。

「海外に発信できる日本製高品質素材」をコンセプトに、多様な産地、染工場と取り組んだ定番の備蓄生地から新作生地まで100点以上を展示した。新作の合繊割織系



弾力に大きな東京展に位置づける川越政とメイン

タイプ機能性繊維は撥水(はっすい)加工を施しながら無地とリップストップで展開。梳毛糸使いの高品位メルトンは梳毛糸による上品な風合いと適度な薄さ、軽さを実現し、ウオッシュアップのシリーズでは特殊なポリエステル・ウール混紡糸使いでハリ・コシ感と柔らかさ、膨らみを付与、カーキ、ブラック、ネイビーのカラー展開による

主としてメンズ分野で拡販を狙う。

ここ数年ヒット商品となつている経糸にインディゴ綿糸、緯糸にナイロン長繊維糸を配したハイブリッドナイロンインディゴのシリーズでは新色

や組織変化を訴求するとともに、インベスタの「コートユロナイロンを緯糸に使用したパーションも加え、さらなる同シリーズの拡販を狙った。

製品OEM部門との連携展示会でもあった今回の個展では、生地から差別化した上で自社企画、独自デザイン力高め、ODMを自指すとして、再帰反射プリンットのジャケットや、プリントのように見えるマル

東京西川 高反発マットレス

東京西川は、高反発ウームを使った「Lumo」を発売する。ヤラクターに優としても活躍している。トリアルの「写真」をルーンは数と、使用して具の上に乗せ向上させるト